



岡山県災害派遣福祉チーム (DWA T) 第2期派遣チーム員が決定!



能登半島地震支援に向け、1月31日から3月2日までの第12クールから第25クールとなる岡山DWA Tチーム員派遣の第2期募集に対し、28名の応募があり、14名の派遣が決定いたしました!

12クールからは、宿泊先を富山県高岡市に変更。七尾市まで少し時間短縮できます。

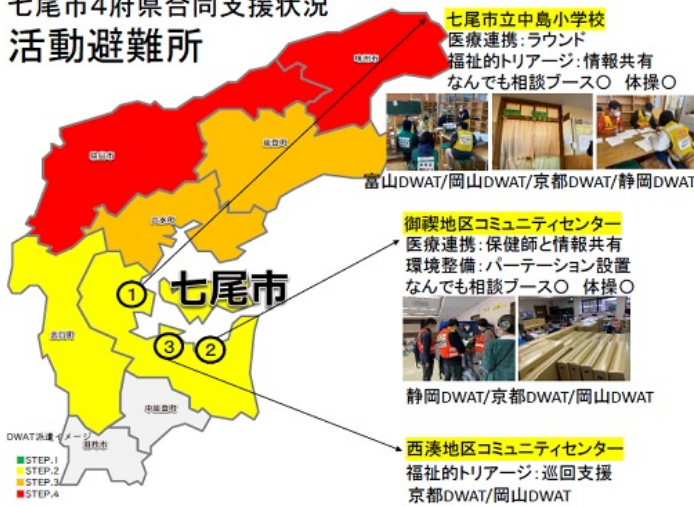
派遣された岡山DWA Tは、金沢市内のホテルに宿泊し、七尾市まで支援に向かっていたのですが、渋滞や雪の状況により、移動に時間がかかっていました。そのため、12クールから、他県DWA Tも泊まっている富山県の高岡市のホテルに変更しました。少しは七尾市までの時間短縮が図られると思います。☺

雪に慣れていない岡山県人としては、雪道は大変なようですが、レンタカー (4WD) で支援に向かっています。



岡山DWA Tへの依頼業務・役割が変更

七尾市4府県合同支援状況  
活動避難所



現在、七尾市の避難所に、京都府、岡山県、富山県、青森県のDWA T、志賀町の避難所に、静岡県、熊本県のDWA T、1.5次避難所に、石川県、群馬県、滋賀県、熊本県、富山県、福井県、鳥取県のDWA T、本部に千葉県と愛知県 (予定) のDWA Tが入り活動されています。(14府県)

岡山DWA Tは、七尾市・志賀町の避難所支援を担当し、避難所を巡回しながら、各避難所における要配慮者の状況確認と必要に応じたアセスメント、福祉支援の見立て、支援のつなぎ等を行っていますが、避難所で活動する滞在 (常駐) 型の必要性が見受けられ、現在5カ所 (調整中2カ所含む) を担っていますが、今後とも増えることが想定されます。

そのような状況から、各避難所で活動する滞在 (常駐) 型のDWA T活動の状況把握や各チームの管理、本部との調整、保健医療福祉調整会議等への参画、保健師や対策本部との連携・調整等、チームマネジメントであったり、コーディネーション機能が必要となっており、岡山県には、以前の活動内容とは異なり、以下の活動内容が依頼されています。

- 【活動内容】**
- 活動チームの管理
  - ロジスティクス※
  - ※物資調達から必要な消費者の手に届くまでの一連の流れを一括で管理するシステム
  - 本部との調整
  - 現地保健医療福祉調整会議等への出席
  - 保健師、市町対策本部等との連携、調整
- (想定される活動)**
- ▶ 避難者支援にあたるDWA Tからの相談対応
  - ▶ 各避難所のDWA T員の人員配置の管理や調整
  - ▶ 本部と各避難所支援のDWA Tとの橋渡し
  - ▶ 保健医療福祉調整会議等、他専門職との協議の場に出席し、情報収集や提供
  - ▶ 情報共有 等

## A避難所でのDWA Tチーム員の対応（ご紹介）

支援関係者の合同ミーティングの際に、保健師さんよりDWA Tへ介入相談あり



Hさん 72歳・男性 要介護5 身体障害者1級頸椎損傷下半身不随妻と娘（知的障害疑い）の3人で避難所生活。

- ・ダンボールベッドで過ごしている。
- ・妻が体位交換、オムツ交換等しているが、回数が充足しているか不明。
- ・清拭している様子はある。褥瘡なし。弾性ストッキング着用中。

DWA Tチーム員が、巡回訪問時に、A避難所で本人、妻、娘と話をする。

### ☆気づいたこと

- ・避難所の生活環境が悪く、寝たまま、褥瘡、体位変換、座位による食事、尿瓶での排尿、水分摂取等が足りていないことがうかがえる。生活不活発病、肺炎、尿路感染等リスクもあり。

### ☆わかったこと

- ・本人の担当ケアマネジャーがわかり、連絡し、本人状況等について教えてもらう。

### ☆今後の見立て

- ・避難所での生活環境をみるかぎり、二次避難の必要性が高い。  
1.5次避難所、福祉避難所、ショートステイ入所等の検討が必要。

### ☆つなぎ・連携

- ・担当ケアマネジャー、包括支援センター、避難所管理者、保健師へ情報を提供し、共有。



## 要介護者を守ることが、災害関連死を減らすことにつながる

テレビ朝日の記事（R6.1.25 YAHOO ニュースより転記）

『能登半島地震で災害派遣医療チーム＝DMAT の一員として活動した医師が日本記者クラブで会見を開き、要介護者を守ることが災害関連死を減らすことにつながると話しました。

名古屋大学医学部附属病院の山本尚範医師は、今月4日から8日までDMATの一員として石川県珠洲市に入り、高齢者施設の入所者を安全な地域に搬送する際の調整を担いました。

厚労省によりますと、能登半島地震ではおよそ20の高齢者施設で入所者1,000人ほどの大規模な搬送が行われました。

行先は石川県内、富山、愛知などで陸路だけではなく自衛隊の輸送機も使って運ばれました。

山本医師によりますと、愛知などへの長距離搬送はDMATとして初めての試みだったということです。

これまでのDMATの主な活動は緊急治療が必要な患者への対応でしたが、今回のように長期間の断水など、インフラの復旧に時間がかかっている場合、要介護者は災害関連死の可能性が高いと考え、早期の対応が必要だったと報告しました。

今後は、地元を離れて過ごす高齢者のケアなども課題だとしています。』

**二次災害（災害関連死等）防止に向けて、DWA Tの活動が必要！**

## 災害ボランティアセンターに、全国の社協から応援が始まる！

石川県内の社協職員は、珠洲市や輪島市等の奥能登地域への支援を行っておりますが、七尾市や志賀町等の中能登地域への支援が必要な状況が見受けられ、各ブロックの都道府県社協へ応援派遣の要請が始まりました。

現時点では、東海・北陸ブロックと関東ブロック、近畿ブロックの社協が派遣（調整中含む）されており、今後、中国ブロックにもスケジュールが示されるので、本会（岡山県社協）も中国ブロック管内の社協や県内の市町村社協と連携し、支援に入ります。

また、災害特例として緊急小口資金の貸付窓口の応援として、1月29日より石川県の珠洲市に本会職員を派遣いたします。

